

情報化施工を披露

学生向け大規模見学会

三井住建道路

三井住建道路は、さいたま市内で設計施工を手掛ける芝浦工業大学大宮キャンパス総合グラウンド整備工事の現場で、同大工学部土木工学科1年生約100人を対象に見学会を開いた。学生向けに大規模な見学会を開くのは同社初となる。マシンコントロール(MC)による情報化施工とRC擁壁の現場を披露したほか、同学科を3月に卒業し、4月に同社に入社した寺内和子さんが社会人になってから

の活動状況を報告した。

見学会に先立ち、神田隆行作業所長は教室で工事概要や情報化施工、擁壁工施工計画フ



神田所長(右)と寺内さん(左)

ローなどを説明。続いて寺内さんは、入社後に本店やプラント、技術研究所などでの研修を経て、9月から同工事の現場に配属されたと自己紹介。現場では新規入場者教育やトータルステーション(TS)の設置、作業日報の作成などに取り組んでいるとした。資格は2017年に2級、将来は1級の土木施工管理技士を取得し「会社に貢献できれば」と語った。その後、学生らはグラウンドに会場を移し、TSで測定した建設機械の位置情報とコンピュータ内の制御データを用いるMCブルドーザーの施工と、RC擁壁工を見学し



MCによる造成を見学する学生ら

た。同ブルドーザーは西尾レントオールが提供した。授業を受け持つ伊与田岳史同学科教授は、「(就職する上で)インターンシップに行っている見方がいい。そのきっかけとして今回見せてもらった」と見学会を受け入れた経緯を語った。神田所長は、「現場で聞きたいことがあれば声をかけてほしい。いつでも対応する」と学生に呼び掛けた。

工事概要は、造成、グラウンド舗装(人工芝2万0850平方尺、テニスコート人工芝6679平方尺)、防球ネット設置、擁壁設置(長さ132尺)、付帯施設(野球場、サッカー・フットサルコート、ラグビー・アメフト場、テニスコート、ゴルフ練習場)など。7月末に着工しており、17年3月末の完成を目指す。

「格好の教材がすぐ近くに」

土木工学科
1年生が参加

芝浦工大で見学会

三井住建道路

土木工学を学ぶ大学生にとつて格好の教材がすぐ近くにあった。しかも、今年3月卒業で4月入社

の先輩が情報化施工の現場見学会が今月16日に開かれた。参加した同大工学科の1年生10人が現場で稼働するトータルステーション(TS)と受信重機(フルド

ーザ)を遠回しに囲み、熱い眼差しを向けていた。現場見学会は、学校担

明。続いて土木工学科を16年3月に卒業した先輩で同作業所に勤務する寺内和子さんが「社会人になっての活動報告」を行った。



情報化施工を説明する寺内さん⑥

寺内さんは伊代田教授の教え子のひとり。4月に入社し、5か月間の研修などを経て、9月に作業所へ配属となった。研修期間中には舗装構造や測量実習、資格取得教育も受けた。8月研修では2級土木施工管理技士の学科模試を受けて合格。17年は受験資格が得られるため本試験を受検する。また将来は1級土木

日の進捗状況と明日の作業内容を確認します」と話し、「安全関係書類や会議資料準備、CAD図設計など事務作業も現場にとつては重要な仕事」と語り掛けた。

伊代田教授と学生はすぐ近くの施工現場に移動

し、TSによる情報化施工と擁壁工施工についての説明を受けた。造成工事では情報化施工を導入している。TSで測定した建機の位置情報と制御データから、建機のプレードの誘導すべき位置をコンピュータが計算。その情報をもとにTSから建機に向けてレーザービームを照射・誘導し、フレードを制御する。このマシンコントロールは仕上がり精度向上のほか、安全性向上と環境負荷低減、日施工量増加など作業効率向上に大きな効果を発揮している。擁壁工

施工はボーリング調査で地層、耐力の確認を行

い、逆T型擁壁を採用した。神田作業所長は「身近に土木が学べる現場があります。何かわからないことがありましたら、何時でも声をかけてください」と話していたのが印象的だった。

「工事内容」既存の施設の解体撤去工事、造成工事、グラウンド舗装工事(人工芝舗装2万0850平方尺、テニスコート人工芝6679平方尺)、構築物設置工事(擁壁設置高さ1×3・5m延長132m、北側フェンス高さ2・5m延長250m)、ミスト散水設備工事、防球ネット設置工

事ほか 工期16年5月10日〜17年3月31日

大学生100人を集め 大規模現場見学会

三井住建道路

三井住建道路は16日、さいたま市見沼区の芝浦工業大学大宮キャンパスで施工している総合グラウンド整備工事の現場で、同大の学生を対象にした見学会を開いた。同社が学生向けの大規模な現場見学会を開いたのは初めてで、約100人の学生が参加。ブルドーザーが自動制御で動く様子などを興味深そつに見学していた。

見学会では、本年度に入社してこの工事現場に配属された寺内和子さんが、研修内容や現在行っている仕事の内容などを説明。「土木の現場は女性が少なく大変なイメージがあるが、楽しんで仕事ができている。ぜひ将来の選択肢の一つに入れてほしい」と学生たちにエールを送った。その後、トータルステーションを使用した路床の施工現場や擁壁の設置工事を見て回った。

参加した学生たちは現場
担当の話に興味深げに
聞き入った



同工事は同社が設計・施工を担当。7月に工事を開始した。現在は擁壁の設置工事やグラウンドに水をまくためのミスト散水の設置工事などを行っている。17年3月中旬に完了する予定。

学生たちは「現場を見学したことで将来の具体的なイメージが湧いた」「今学んでいることが実際の工事現場で活用されていることが分かり、モチベーションが上がった」「将来広い現場で大きなものを造りたいと感じた」と感想を話していた。

同社は、今後も積極的に学生向けの現場見学会を開き、採用活動につなげる方針だ。

2016年11月28日付 建設工業新聞